小林義雄*: ヒマラヤ産クチベニタケの一種とハナサナギタケ

Yosio Kobayasi*: Himalayan *Calostoma* and *Isaria*

(Pl. V)

1960年と1963年に行われた東大のインド，ヒマラヤ植物調査隊によってもたらされた高等菌類はヒマラヤ菌類研究グループによって整理研究されつつあるが，それとは別に原寛隊長により第二次調査(1963)の時と昨年単独でシッキムに入った際に採集の菌と素晴らしいカラー写真とが私の研究に委ねられた。ここに公表して同氏の好意に報いたい。

菌の一つはその同類が日本にもあってクチベニタケと名付けられているものに外観が極めて酷似するにも拘らず，実は全然別種のものである。他はハナサナギタケであって日本固有種と思われて居ったのが今回はじめてヒマラヤ地域に見出されたのである。二つを並べて見ると菌類の分布が如何に複雑であるかという実感が湧く。

1. ***Calostoma junghuhnii*** (Schl. et Muell.) Massee, in Ann. Bot. **2**: 39 pl. 3 fig. 21 (1888); Y. Kobayasi, in Acta Phytotax. Geobot. **20**: 255 fig. 4, 5 (1962). *Mitremyces junghuhnii* Schl. et Muell., in Bot. Zeit. **2**: 401 pl. 3, B (1844); Berkeley, in Hooker's Lond. Journ. Bot. **5**: 173 (1854).

Hab. Halhale (ca. 2,700 m), Nepal (H. Hara, Dec. 2, 1963).

Berkeley によれば Hooker はシッキムの Chola (6,000—8,000 ft.) および東部ネパール，ブータン等で採集している。ここに示す写真の如く日本のものに外観が似ているが胞子は全然異り球状である。頭部の表面には鱗片が著しく白色乾燥質である。

本種のタイプはジャバ産であり，スマトラ，シンガポール，ボルネオ，セレベス等東南アジアに分布している。台湾産の *Mitremyces formosanum* Sawada (タイワンクチベニタケ) は根状部の極めて短い一型で，私は将来その変異の範囲をよく調べた上で *C. junghuhnii* の一品種とする積りである。

2. ***Isaria japonica*** Yasuda, in Bot. Mag. Tokyo **32**: 25 (1918) et **35**: 219 fig. 1 (1921); Y. Kobayasi, *Cordyceps* and its allies p. 235 figs. on p. 236 (1941).

Hab. Penlong La, Sikkim 2,100 m (K. C. Pradham and H. Hara, Sept. 13, 1964).

従来日本および台湾に知られていたもので鱗翅類のサナギ，マユ，幼虫等につく。シンネマは1個の寄主上に 10 本程群生し，高さ 2—3 cm，柄部は痩長で写真によれば淡黄色を帯びる。上部は細かく分枝し純白色の分生子叢を生じハタキ状をなす。分生子は円筒状，彎曲し無色 1.5×4—5 μ。以上は日本産のものと全く一致する。寄主は蘚類と雲母片を含む土壌に埋ってはっきり判らないが，僅に見える肢から判断すると直翅類の成虫のように見える。ここに一つの問題がある。それは本種の完全型についてであって，

---

* 国立科学博物館. The National Science Museum, Ueno Park, Tokyo.

Cordyceps takaomontana（ウスキサナギタケ）であることが日本で確認されている。我国でこれを実証する標本は数回採られているが，ハナサナギタケの発見回数に比べると，恐らく1％以下であろう。そこで今回のヒマラヤ産ハナサナギタケの発見によって，将来はこの地域でも完全型のウスキサナギタケが発見されることが予想される。大いに期待したい。

Summary

Calostoma junghuhnii has already been known from Himalayan region since 1854, although the colour of fruitbody was vaguely described by Berkeley. This colour plate may represent the natural colour of this species.

Isaria japonica has long been known as indegenous fungus of Japan. By this finding from Himalayan region, it is presumed that the perfect stage of "*Cordyceps takaomontana*" will be found in future in this region.

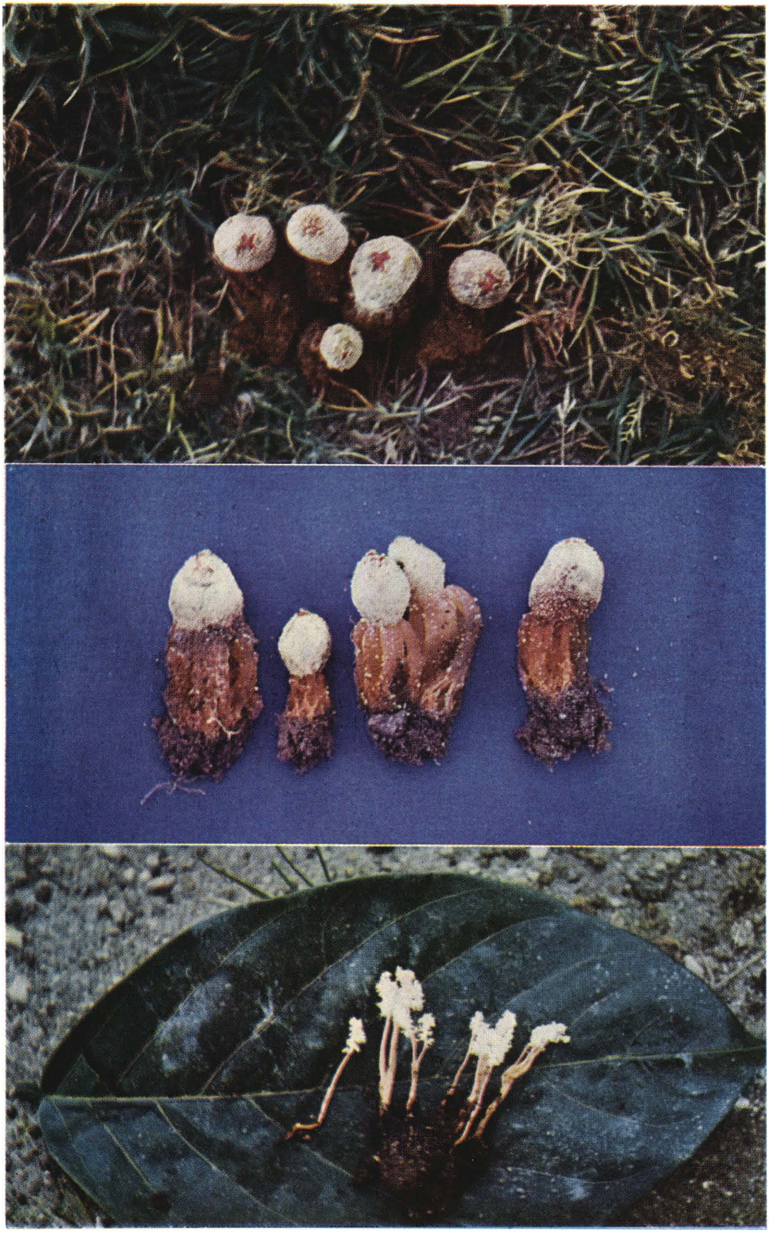
Explanation of the plate V

Upper and middle fig. *Calostoma junghuhnii* of Nepal. Lower fig. *Isaria japonica* of Sikkim (all figures photographed by Prof. H. Hara).

□孫福 正・山田耕作：**伊勢神宮宮域産苔類図鑑** pp. 178，神宮司庁林務課，1964，六月社(大阪)，1300円。　服部新佐閲。伊勢神宮宮域内に発見された，苔類145種7亜種1変種の図と解説であるが，ここに取扱われている種類は，関東以西の低地に普通にみられるものがほとんど含まれている。これまでにこのような完ぺきな苔類の図説は，日本では出版されていないので，普通にみられる苔類を調べる上で非常に有益である。図もきれいにできている。種の解説は極端な記載文であるが，もう少しやわらかくできたら，更に親しみ深くなるであろうし，最後の用語の解説の中には，説明の不適当な所もある。引続き，蘚類についても同様の書物が刊行されることを希望して止まない。(井上　浩)

正　　誤 (Errata)

頁 (Page)	行 (Line)	誤 (For)	正 (Read)
90	9	ly, ...mongolia are	ly...mongolia, are
96	30	特産	特性
〃	35	例細胞毛	列細胞毛
〃	35	種を区別	種と区別



Y. Kobayasi: Himalayan *Calostoma* and *Isaria*